

平成 23 年 9 月 27 日 予算監視・効率化チーム 会合 議事概要

◇ 奥田副大臣（チームリーダー）挨拶

国土交通省の予算監視・効率化チームにおいては、これまでも予算執行計画の策定、行政事業レビューの実施など、政務のリーダーシップのもと、外部有識者の先生方にもご尽力頂きながら、納税者の視点から予算の効率化に向けた取組を着実に進めてきたところであり、本日も闊達なご議論をお願いしたい。

◇ 行政事業レビューの結果の概算要求への反映状況

会計課長より資料に基づき説明

外部有識者の発言

- 行政事業レビューが始まって1年たったが、心配しているのは、「評価疲れ」や「チェック疲れ」が生じること。かつて地方公共団体の間で、行政事業レビューと同じように予算執行の流れを明らかにする取組が流行していたが、結局、調書などの書類を作ることが目的になってしまい、経営システムに組み込むことができないまま廃れてしまった。行政事業レビューもその二の舞にならないことを祈りたい。
- 外部有識者をいかに効果的に使っていくかが重要。我々が事業をヒアリングしたときにした指摘の「感覚」を共有することが、より国民の感覚に沿った予算の使い方につながると思う。
- 行政事業レビューの結果についても、「どれだけ削減しました」が重要ではない。外部有識者の指摘等を基に、「どのように予算を使っていくか」という点について、省全体の共通認識を作りあげていくことが大切。
- 行政事業レビューの対象事業については、昨年と今年と同じ事業についてヒアリングを行い、前回のヒアリングで既に分かっていることの説明を再度受けたりと、レビューの対象に偏りがあると感じた。今後は、ヒアリングの対象について改めて検討してほしい。

- レビューの対象となっている事業には、極めて専門的な知識が必要なものもあり、我々も勉強が必要であった。行政の分野では、行政事業レビューが始まる前から、専門的な知識をもった評価委員会等により、政策評価などの取組が行われてきている。今後は、こうした政策評価部門との情報交換・連携が必要となると考える。
- レビューについて思うことは、個別の事業の必要性を理解することはできるが、事業同士での必要性を比較し、予算投入の優先順位をマネジメントするための制度にはなっていないということ。レビュー結果の予算要求への反映では、どのようにメリハリをつけて要求事項の選択したかというアウトプットが示されることが望ましいと考える。

◇旅費・庁費支出計画及び特定経費年度執行結果

会計課長より資料に基づき説明

外部有識者の発言

- 旅費・庁費の支出計画とその執行結果の報告・公表については、年度末のいわゆる駆け込み消化に対する問題意識を根付かせるための可視化と言った点で意義のあることである一方、民間企業における経営層、国の機関で言えば政務が旅費や庁費と言った経費を特出ししてチェックすることは考えにくく、これらの経費の執行結果の分析は、もう少し簡素化しても良いのではないか。
- 特定経費の支出負担行為計画とその執行結果の報告・公表については、特定経費自体が各部局等自らその執行にあたり効率化に取り組むべき経費と位置づけているもので、民間企業であれば、経営判断上重要なものと考ええる。
- 特定経費について、各部局等毎の効率化の取組内容をとりまとめたり、執行率が低い事業の分析を行ったことは、方向性としては良いのではないか。
- 特定経費に係る執行の効率化については、執行の適切性・透明性の確保、費用対効果、事業効果の早期発現と言った様々な側面があり、執行結果の評価も執行率が良ければ良いのか等、見方により様々であり、評価方法は今後も検討していく必要がある。